

令和4年度農地中間管理事業に対する評価委員の評価

評価及び評価理由

区分	評価理由・コメント	評価
事業計画に掲げた目標	<p>目標集積面積1,500haを上回る2,137haの実績だった。円滑化事業からの大量移行が要因である。愛知県では円滑化の実績が全国でも大きかった特殊性はあるが、それを移行するにあたっては信頼関係の構築や調整の努力がうかがえる。</p> <p>9年間の農地中間管理事業を通して、愛知県としての効率的な農地の有効利用の形が見えてきた。今後は新しい体制に変わる中、愛知県における取組について全国に向けて存在感を示していく必要がある。具体的には、これまでの成果を「地域計画」、「目標地図」に反映してもらうための方策について、検討が必要になってくると思われる。</p>	A
活動方針	<p>新旧の制度がしばらく並行する中、令和5年度からの法改正の周知・理解促進に向けた研修会開催、「業務手順書」の作成・配付や説明会開催など、事業推進体制の強化に努めたことが評価できる。</p> <p>今後は、新旧の仕組みを整理しながら、「地域計画」の策定も促していかなければならず、今まで強化した事業推進体制をどのような形で新しい体制に引き継いでもらうかについて、早急に検討を進める必要がある。</p>	A
針	<p>「人・農地プラン」に基づく話し合いの継続的取組を通じた推進</p> <p>名古屋市中川区と弥富市の事例は、具体的な農地集積のプロセスと農業生産性の向上という結果が示され、特徴的な成功事例として整理したことは評価に値する。</p> <p>今後は、ノウハウの集積および整理が望まれ、その手法を生かした県内他地区への波及を期待したい。「人・農地プラン」に代わる「地域計画」の策定支援において、今まで以上に地域の将来の農業像を意識した、農地集積の取組を望む。</p>	S
農地利用集積円滑化事業等からの計画的な移行	<p>前回の令和2年度の法律見直し時点で11,000haに及んでいた円滑化事業における集積農地を中間管理事業へ移行するにあたって、JA愛知中央会の指導と協力も得ながら、効率的な移行ができています。</p> <p>市町村やJAとの連携協力を密にし、業務委託を行いながら効率的に農地集積を推し進めることができたことは、大いに評価できる</p>	A

区分	評価理由・コメント	評価
<p>基盤整備事業と連携した取り組みの推進</p>	<p>地区全体の合意形成に時間を要する取組みであるため、令和4年度には農地集積の実績を挙げることはできなかった。しかし、5地区において話合いが進展しているため、令和5年度へ向けて実績を期待できそうである。</p> <p>基盤整備も円滑化事業のように連携をうまくして取り組んでほしい。また、積極的に取り組んだにもかかわらず、合意に至らなかった経緯の整理が必要になる。</p>	<p>B</p>
<p>集積が十分でない地域等への働きかけ</p>	<p>農地集積に苦労している地域について、実情に合わせた選択肢を用意し、継続的に進めている。集積が進みにくい作物の特化した農地相談員の配置などの試みが次年度以降に実を結ぶことを期待したい。</p> <p>現状で、集積が進まない理由があることは十分に理解できる。今後機会を見て、長期計画を念頭に置き、集積が十分でない土地の扱いについて、どのような形で市町村の策定する「地域計画」へ反映させていくべきかについて、市町村との意見交換を積極的に始めてほしい。</p> <p>また、担い手の立場からの意見として、畑地などの貸借について期待しており、そのためには国における助成金の検討が必要だと思う。</p>	<p>B</p>